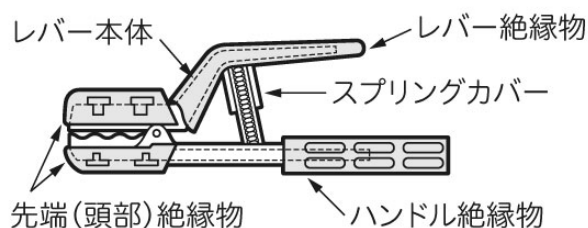
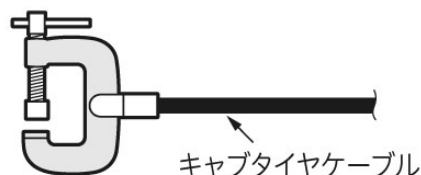


安衛則 325	強烈な光線を発散する場所は区画する。
安衛則 331	溶接棒ホルダーは感電を防止するため必要な絶縁効力及び耐熱性を有するものでなければ使用してはならない。
安衛則 332	金属体で囲まれた場所で著しく狭あいなところ又は墜落危険のある高さ 2m 以上の場所で鉄骨等導電性の高い接地物に接触する恐れがあるところで溶接作業を行うときは、自動電撃防止装置を使用する。
安衛則 336	絶縁被覆が損傷、老化しているものは感電防止措置を講ずる。
安衛則 352	溶接棒ホルダー、自動電撃防止装置、感電防止用漏電しゃ断器、アース、移動電線及び接続器具等を使用するときは、その日の使用開始前点検をする。

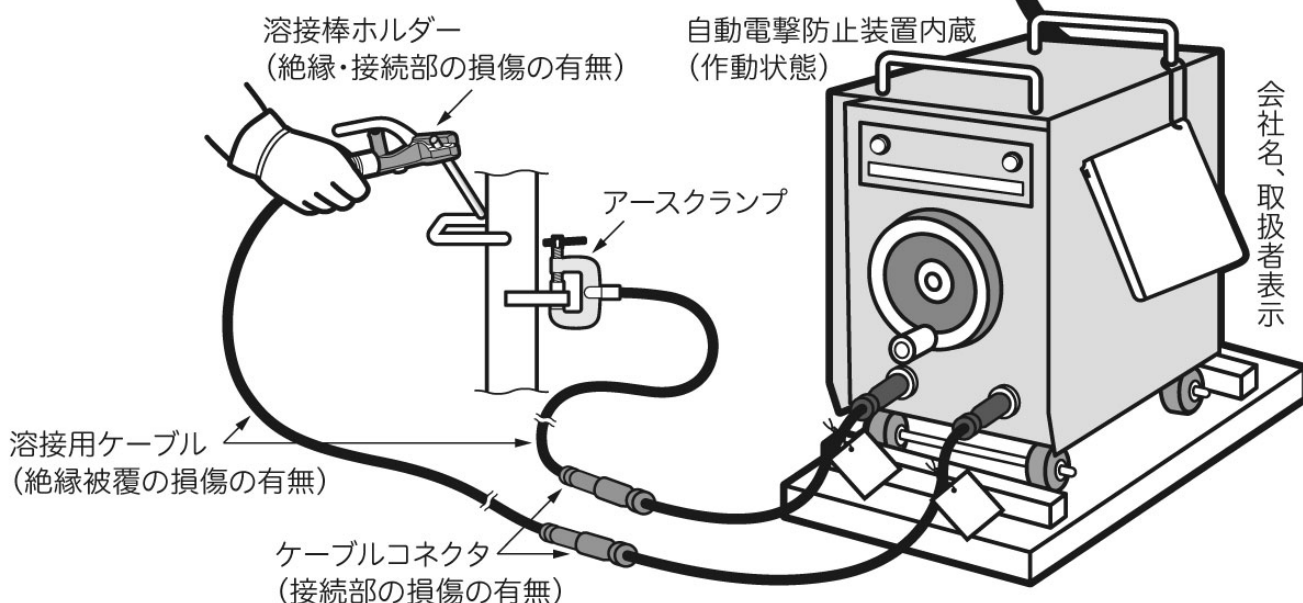
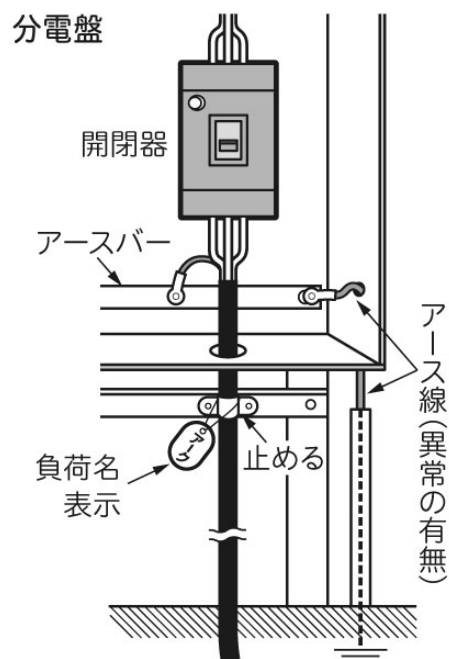
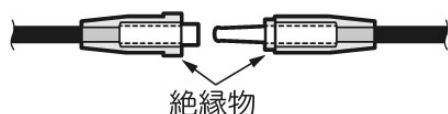
溶接棒ホルダー (JIS C9300-11に適合、又は同等以上のもの)



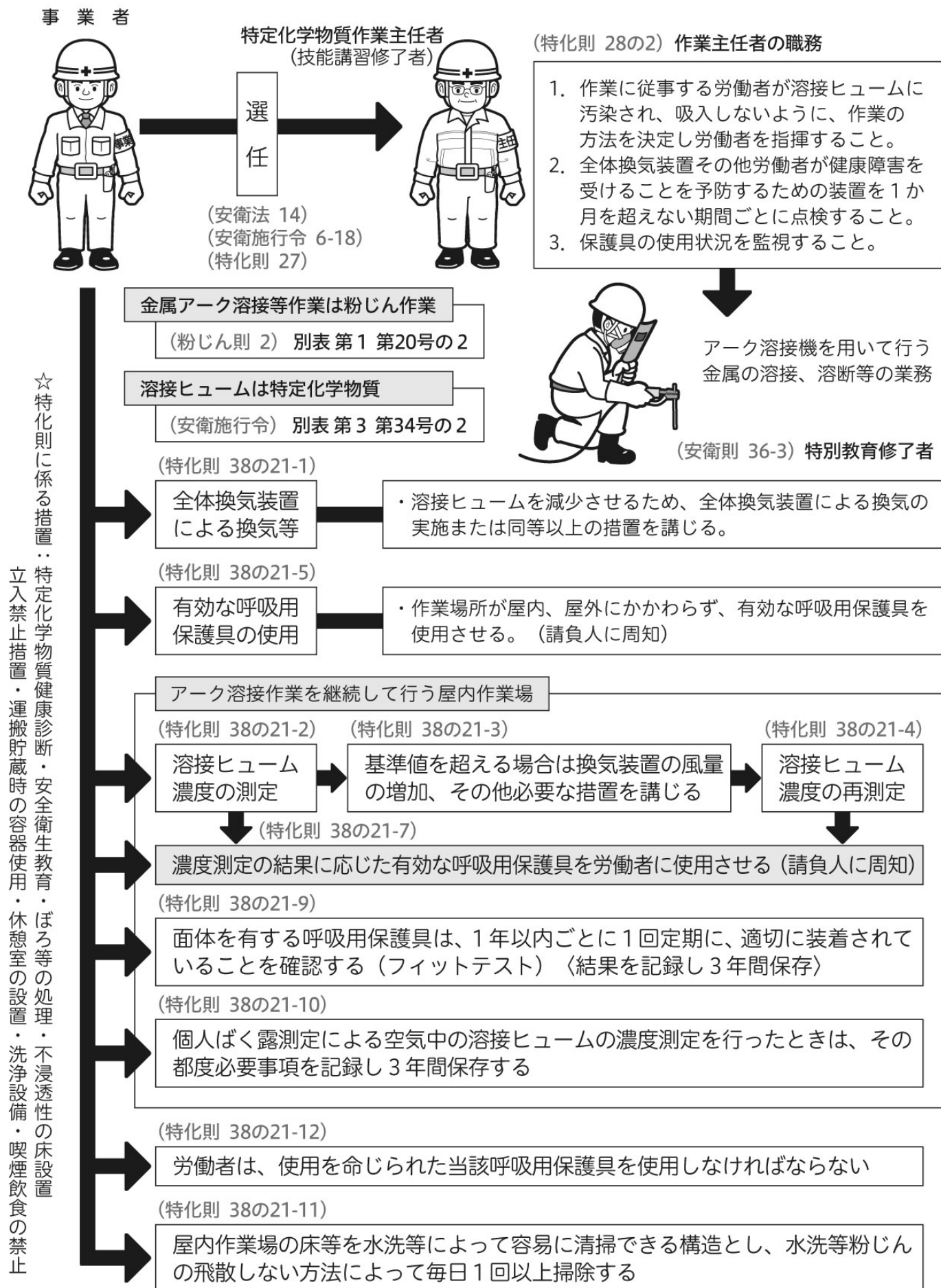
アースクランプ



ケーブルコネクタ



13-7 アーク溶接作業の安全



☆じん肺法に係る措置：じん肺健康診断

☆粉じん則に係る措置：呼吸用保護具